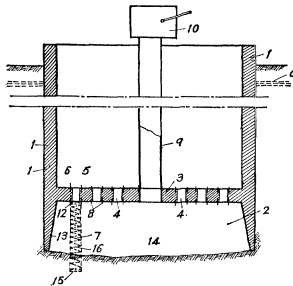


潜函とくいの合成基礎施工法

特公昭 86-19620

発明者 斎藤 政三

従来施工されている作業室天井(3)にくい打位置に通孔(4)(4)を列設し気密ふた(5)により各通孔を閉めくした潜函(1)を圧気潜函沈下工法により 所定の深さに 沈設し通孔よりくい打を行なう潜函とくいの 合成基礎施工法の改良に関するものである。長さが作業室天井の高さよりもはるかに 大である可撓性でかつ伸縮自在の気密管(たとえば旋鉄筋あるいは輪鉄筋(16)で補強し、上下端に縁金物(12)(15)をとりつけた布管が使用される)(7)の上端を通孔(4)下面に装着し、下端を作業室(2)内刃口下方の地盤(14)中に埋設する。つぎに気密ふた(5)をとりはずし通孔内にくいをそう入しくい打機によって打込み、くい下端を安定地盤に 到達させ、さらにくいの上端を作業室に深く進入させ気密ふた(5)によって再び通孔(4)を閉めくし可撓性伸縮自在の気密管を通孔下面からとりはずすと同時にくい頭から抜きとり、このような工程をくりかえし全部のくい打が終了した後作業室および通孔内にコンクリートを充填し作業を完了する。本方法によれば気密管を用いるので通孔上面の気密ふた(5)を取除いても作業室の高圧空気が函外に 逸出するおそれなく 作業室内の掘削作業とくい打作業とが同時に施工できる特徴を有する。

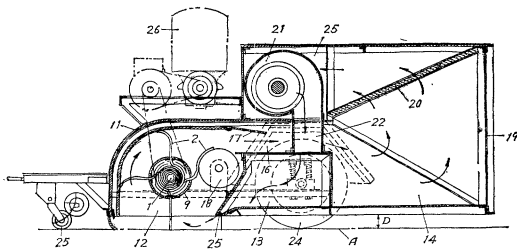


飛行場その他路面の清掃機における 回転羽根の取り付け装置

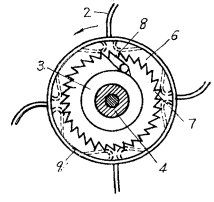
特公昭 36-23219

発明者 福場 博

柔軟な材料で作った数個の羽根(2)の一端を軸(1)に固着し



て重合巻回し、外端は外軸(9)に設けた溝を通して外部に取り出し、外軸(9)の両端にはラチェット歯(7)を設けた支持板(6)を固着し、この歯に軸と共動するように設けた爪杆(8)を係合させ軸の正回転で全体が回転し、逆回転で羽根が引出されるようにした路面清掃機における回転羽根の取り付け装置であって、この種の清掃機では地面(A)に対する羽根先の接地条件が効率におよぼす影響が大きいので、羽根の長さの調節が簡単にしかも適確に行なうことができ、数個の羽根片を同時にひき出すことも可能でそのつど羽根片を取り替える必要がない。



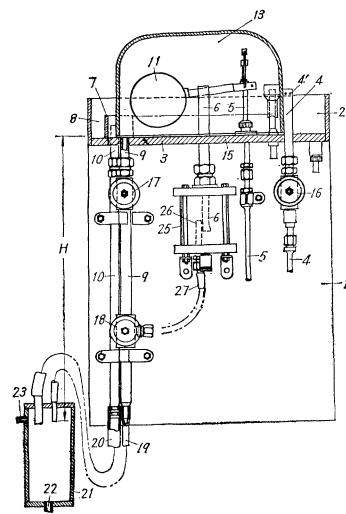
図は回転羽根の取り付け部を示す

塩素滅菌機

特公昭 36-23230

発明者 今村 半六

市街地用水または工業用水に滅菌の 目的で塩素を添加する装置に関するもので、連続的給水(4)および排水(9)(10)装置をそなえた水槽(2)を上方位置に設けてその水槽内の水を底とする気密室(13)を設け、気密室内に塩素供給(5)するとともに気密室内の水位によって作動する浮子弁(11)によって塩素供給量を制御して一定圧力に保つようにし、水槽に接続した排水管(9)の下端を水槽から一定の落差を有する 位置に開口させ 気泡浮上型気体計量器(25)の気体吸入管(6)を気密室に接続し気体排出管(27)を排水管(9)の中途に接続し、その接続経路に調節装置をそなえた空気導入装置(18)を設けた塩素滅菌機である。塩素ガスは水槽(2)から排水管(9)内を流下する水流によって生ずる吸引作用により水に混和される。吸引作用は排水管(9)、(19)



の下端から上端までの水頭(H)によって定まり、この水頭は常に一定であるから塩素吸引作用も一定であり、したがって気密室内の圧力が浮子弁の作用で一定に保たれていれば水に添加される塩素の量も一定に保持される。添加塩素量を調節するには空気弁(18)を調節して吸入空気量を調節することによって可能となる。

(特許庁審査二部 荒木 達雄)

- COASTAL ENGINEERING IN JAPAN, VOL. I (1958) B 5判 147 頁 実費 250 円 (〒 共)
- COASTAL ENGINEERING IN JAPAN, VOL. II (1959) B 5判 122 頁 " 300 円 (")
- COASTAL ENGINEERING IN JAPAN, VOL. III (1960) B 5判 303 頁 " 500 円 (")
- COASTAL ENGINEERING IN JAPAN, VOL. IV (1961) B 5判 122 頁 " 700 円 (")